

事例提示・その後



鳥取県立精神保健福祉センター

令和6年11月18日

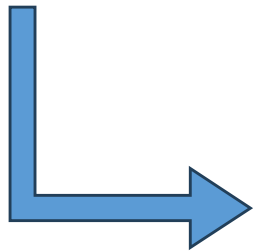
事例提示①

Xさん（40代後半男性）

70代両親と3人暮らし。本人は、10数年ひきこもり状態が続き、人とは接せず、ほとんど外出しない。先月、父が脳梗塞で倒れ入院、今後は施設入所を検討。市外に住む姉（自分の家庭を持つ）が、母と一緒に相談来所。「母も高齢で、（姉も）支援はできない。訪問して、本人に働くように話して欲しい。本人に自立して欲しい」と訴える。

事例提示①（Xさん）について

- ・ 本人は、ひきこもり状態にある。
- ・ ほとんど外出せず、誰とも会わない。
- ・ 両親が面倒を見ていたが、父が脳梗塞で倒れ、今後、母一人に負担がかかる。
- ・ 姉が、何とかして欲しいと相談来所。
- ・ しかし、本人は、十分な会話が出来ない。



母と生活していることから、当面は、
母（あるいは姉も）との家族相談。
訪問は、本人が乗り気でないので難しい。
母の面接を通して、本人の状況を把握、
今後の方向性も検討する。

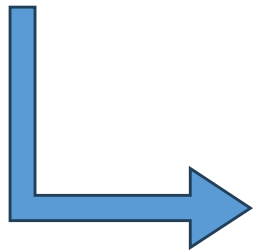
事例提示②

Yさん（40代後半女性）

以前は、80代母と生活していたが、不潔恐怖、こだわりが強く、自宅を出て、アパートに一人暮らし。過去に強迫性障害にて精神科通院歴がある。今は、買い物に外出する程度、面接拒否。収入はなく、母が自分の年金と貯金から本人へ仕送りをしている。最近、母の貯金も残り少なく認知症状も出現。地域包括支援センターから、母の状態を心配して、「本人と関わって欲しい」と依頼がある。

事例提示②（Ｙさん）について

- ・ 本人は、ひきこもり状態にあるが、
買い物など、最低限のことはできている。
- ・ 人とは会わない。収入がない。
- ・ 母が、自分の年金、貯金を送金している。
- ・ こだわり、不潔恐怖があり相談は拒否。
- ・ しかし、本人との面接が難しそう。



今後、困ることは、経済的課題。
本人の収入としては、生活保護か年金。
強迫症状の治療や就労等の話題は出さずに、
年金のみの情報を母から提供。
本人の了解を得られ、支援者と面接が始まる。

ひきこもり相談支援実践研修会A【応用編】 アンケートご協力をお願い

- ひきこもり相談支援実践研修会にご参加いただき、ありがとうございました。
- ご感想、ご意見などがございましたら、アンケートへのご回答をお願いいたします。

アンケート回答URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/af0abe57264876>

QRコードからもご回答いただけます。
(スマホをご利用ください)

